御大禮記念會眞帖

第二編

崇陵縣

YK41
9

國立國會圖書館
57.3.31
圖書館藏書

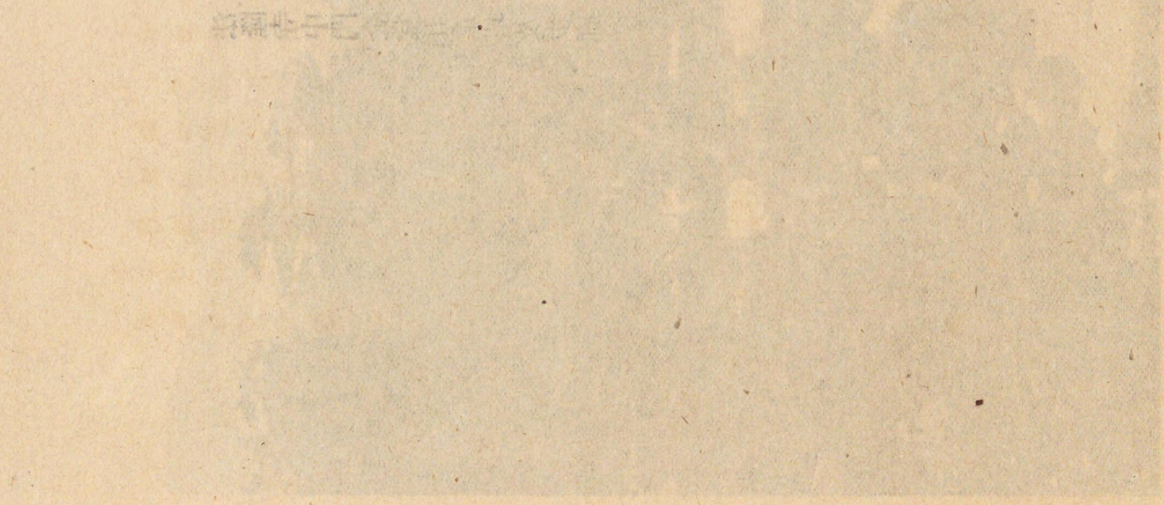
82-17061

YK41
9

第貳編目次

特別保護建造物
飛鳥時代
一　法隆寺中門、金堂、五重塔及廻廊
二　法起寺三重塔
奈良時代
三　東大寺法華堂
四　東大寺法華堂前經庫
五　唐招提寺金堂
六　唐招提寺講堂及鼓樓
七　藥師寺東塔
八　法隆寺夢殿
九　當麻寺西塔
一〇　榮山寺八角圓堂
平安時代
一一　室生寺五重塔
一二　室生寺金堂
一三　春日神社攝社若宮神社
一四　春日若宮神社御廊細殿及神樂所
一五　春日神社酒殿
鎌倉時代
一六　東大寺鐘樓
一七　東大寺開山堂
一八　興福寺北圓堂
一九　十輪院本堂
二〇　靈山寺三重塔
二一　藥師寺東院堂
二二　法隆寺聖靈院
二三　法隆寺上御堂
二四　石上神宮拜殿

當麻寺曼荼羅堂　二五
室町時代
興福寺東金堂及五重塔　二六
法隆寺南大門　二七
談山神社十三重塔　二八
桃山時代
春日神社中門及東西廊　二九
法華寺本堂　三〇
吉野水分神社社殿　三一
江戸時代
東大寺大佛殿　三二
長谷寺本堂　三三
橿原神宮本殿　三四
其他
垂仁天皇菅原伏見東陵　三五
平城宮址　三六
春日燈籠　三七
春日野　三八
嫩草山　三九
瀧阪　四〇
月瀬　四一
龍田川　四二
信貴山　四三
三輪山　四四
初瀬　四五
多武峰　四六
大和三山　四七
吉野皇居址　四八
吉野　四九
金剛山　五〇



法隆寺中門金堂五重塔及歩廊。

生駒郡法隆寺村大字法隆寺　法隆寺境内。

法隆寺は　推古天皇御卽位の初めより十五年に亘りて造營し給ひし大伽藍にして、天智天皇九年火災に罹り和銅年間再建せられしとの説あれども、中門、金堂、五重塔及歩廊は能く飛鳥時代の樣式手法を發揮し蒼古典麗風趣言ふべからず。

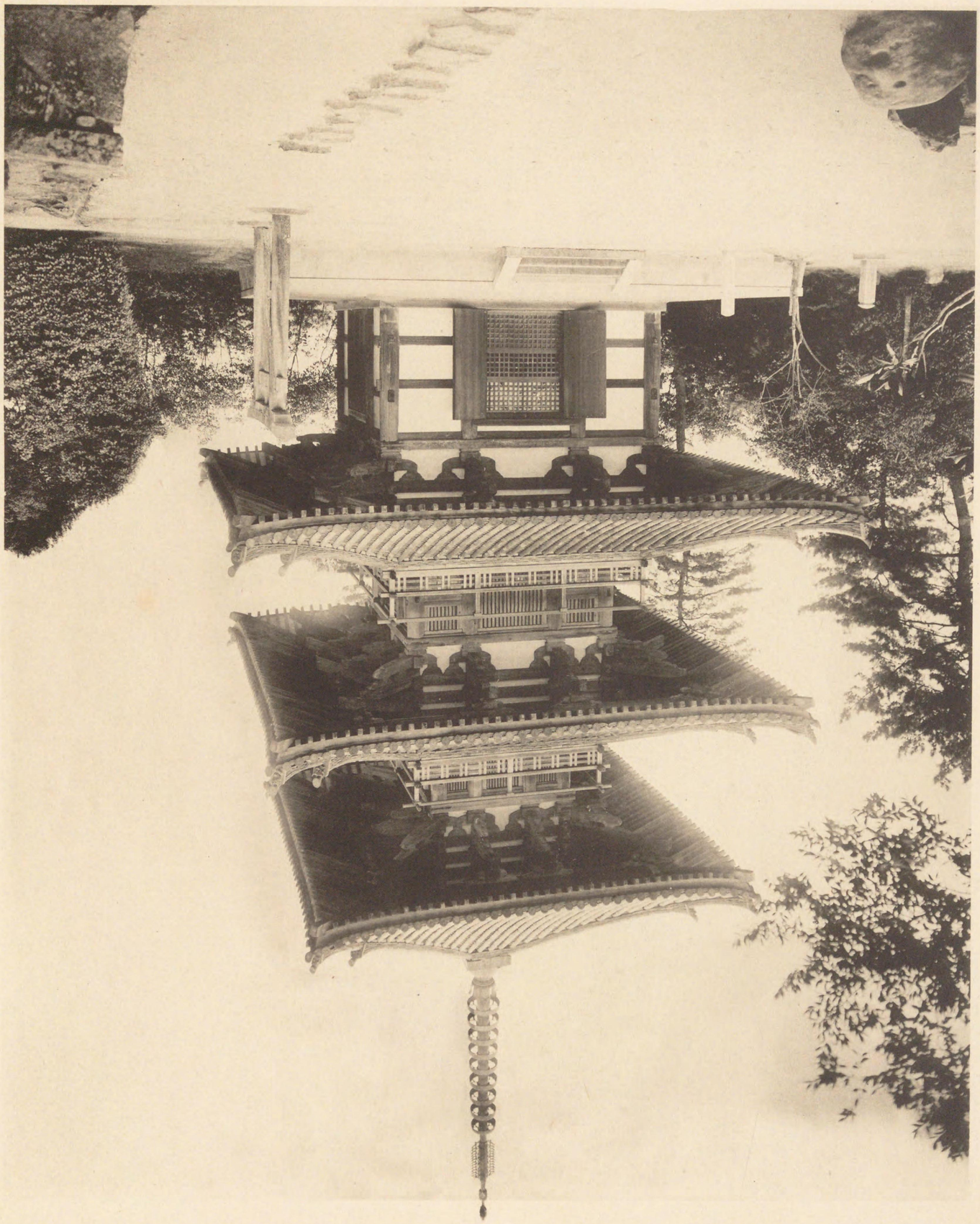
圖の正面に見ゆる四間二戸の樓門は卽ち中門にして、歩廊其左右より起り、金堂及塔婆を圍みて後方大講堂に連る。斯く金堂と塔婆とを東西に配置して伽藍の中樞とせるは他の時代に於て見る能はざる所にして飛鳥時代の一特色たり。

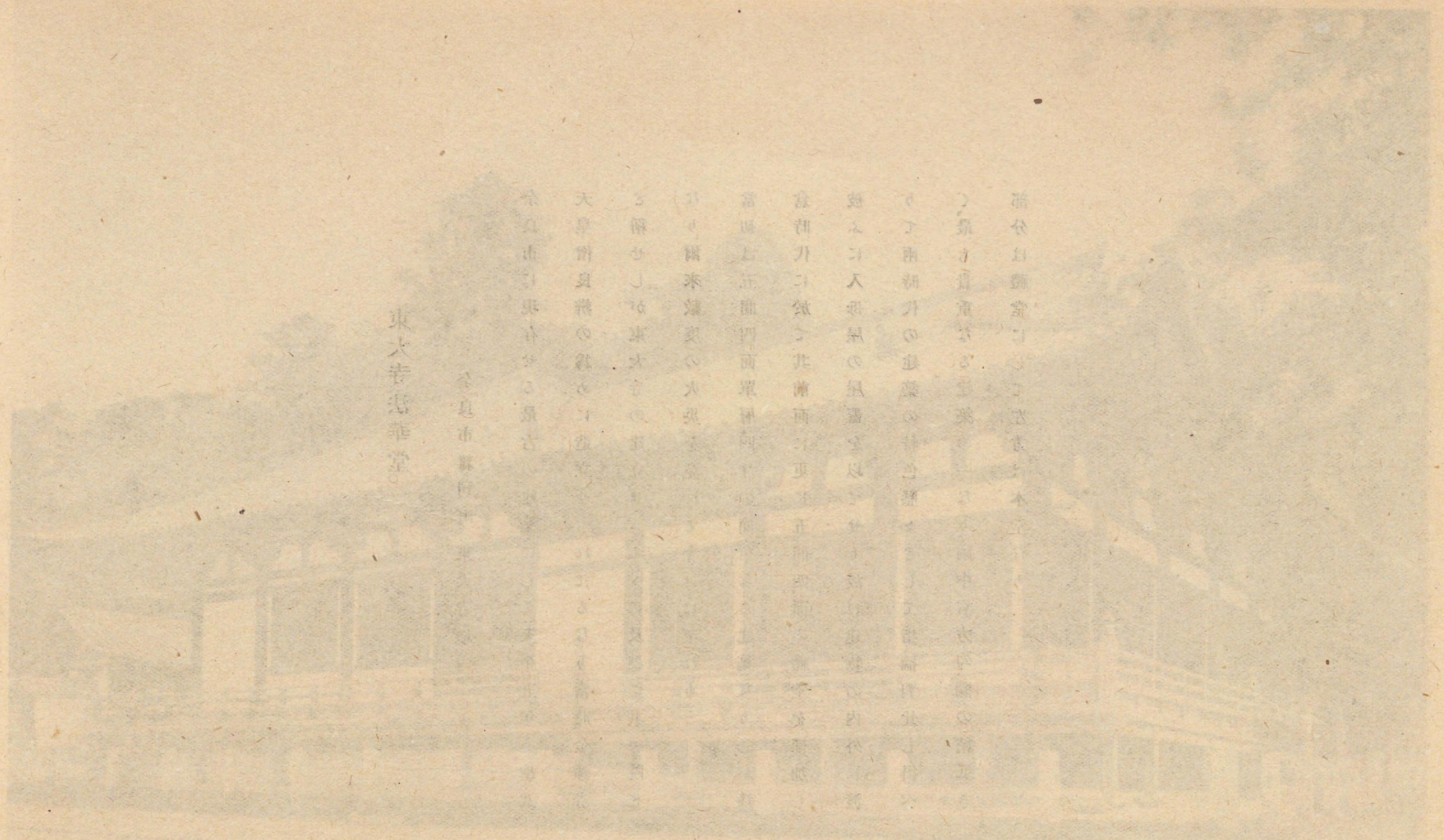
法起寺三重塔。

生駒郡富郷村大字岡本　法起寺境内。

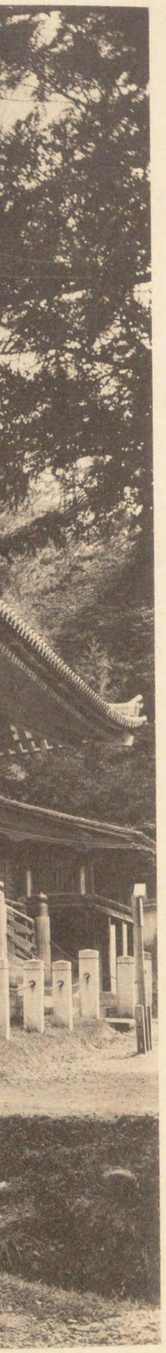
法隆寺記補忘集所載の法起寺露盤銘に據れば、塔婆の創立は慶雲三年に在るものゝ如し。然れども其様式手法より觀るに疑も無く飛鳥時代に屬するものにして、法隆寺建立の時代を距る遠きに非ざるべし。

此塔は軒の出比較的多く、屋蓋の勾配亦頗る緩にして形態の美なる本縣所在の三層塔婆中の白眉たり。





東大赤志寮

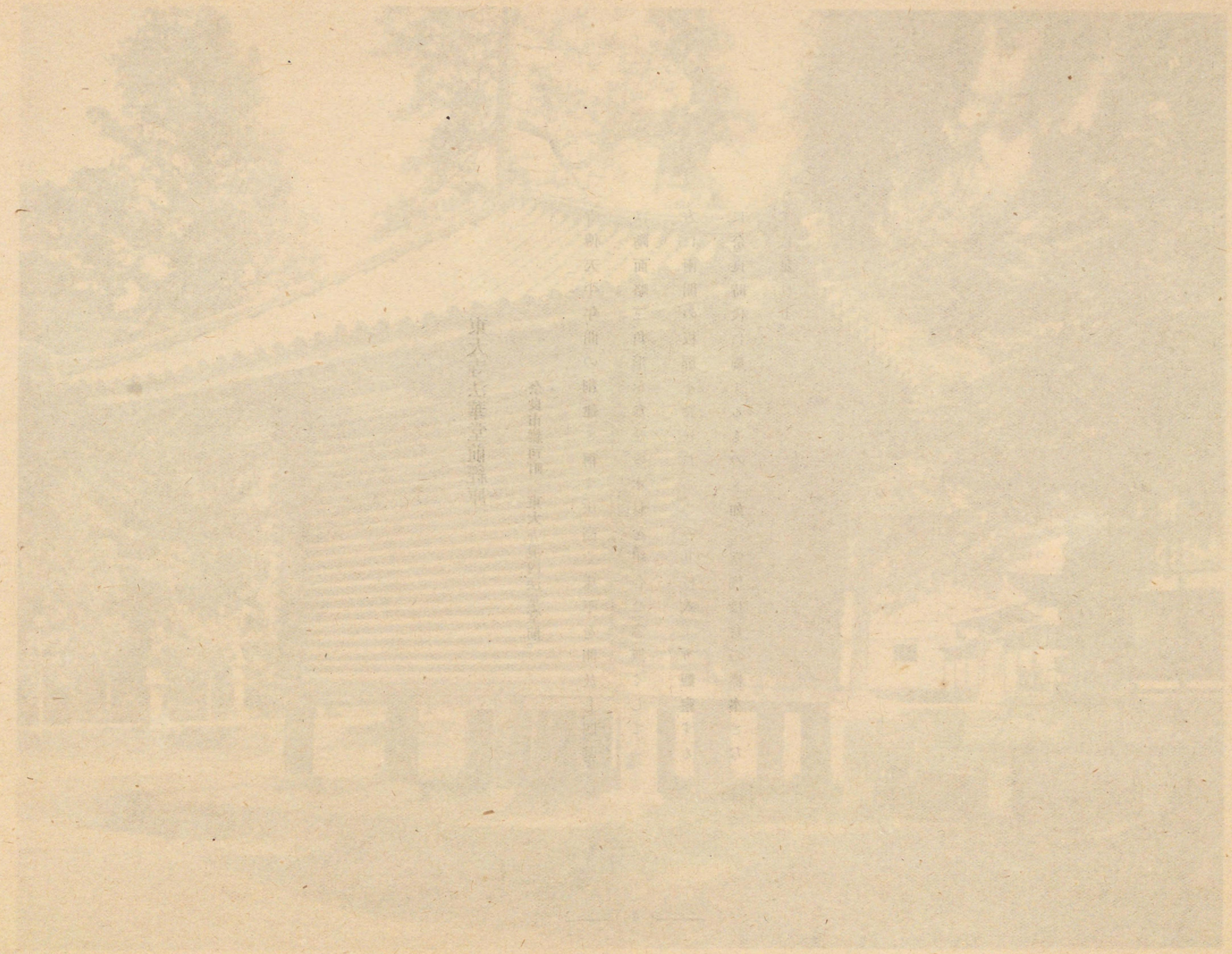


東大寺法華堂。

奈良市雜司町東大寺境內。

奈良市に現存せる最古の建築にして天平五年　聖武天皇僧良辨の爲めに造立せられたるなり。當時金鐘寺と稱せしが東大寺の建立せらるゝに及びて其一院となり爾來數度の火災を免れて今日に至れり。

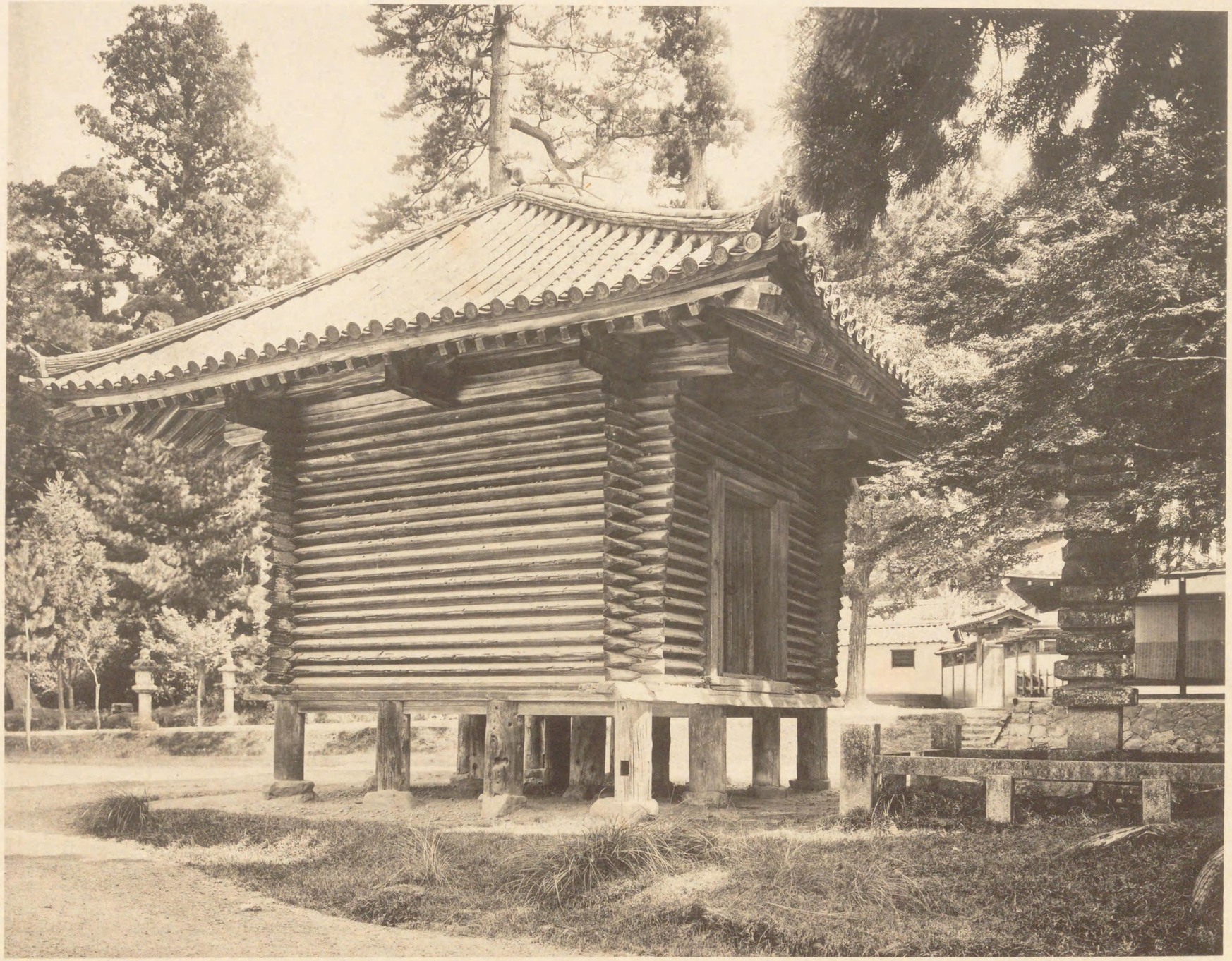
當初は五間四面單層四注の簡單なる建築なりしが鎌倉時代に於て其前面に更に五間四面の禮堂を補加し、被ふに入母屋の屋蓋を以てせり。故に建物の內外に渡りて兩時代の建築の特色歷々として指摘對比し得べく、最も貴重なる建築の一なり。圖中右方勾欄の稍低き部分は禮堂にして左方は本堂なり。



東大寺法華堂前經庫。

奈良市雜司町　東大寺境内法華堂前。

寺傳天平年間の創建と稱す。床高く床下を開放し、四壁は斷面略三角形をなせる木材を組合せ、窓無くして一方に兩開の板扉を設けたるのみ。其様式より觀察するに奈良時代に屬するものゝ如く、當代校倉の標本となすに足れり。



唐招提寺 金堂。

生駒郡都跡村大字五條　唐招提寺境内。

寺傳天平勝寶八年起工、天平寶字三年竣功せりといふ。

卽ち我國に於ける唐風建築法の殆ど完成したる時代にして規模雄大宏壯、現存せる奈良時代の建築中の最大最美なるものなり。

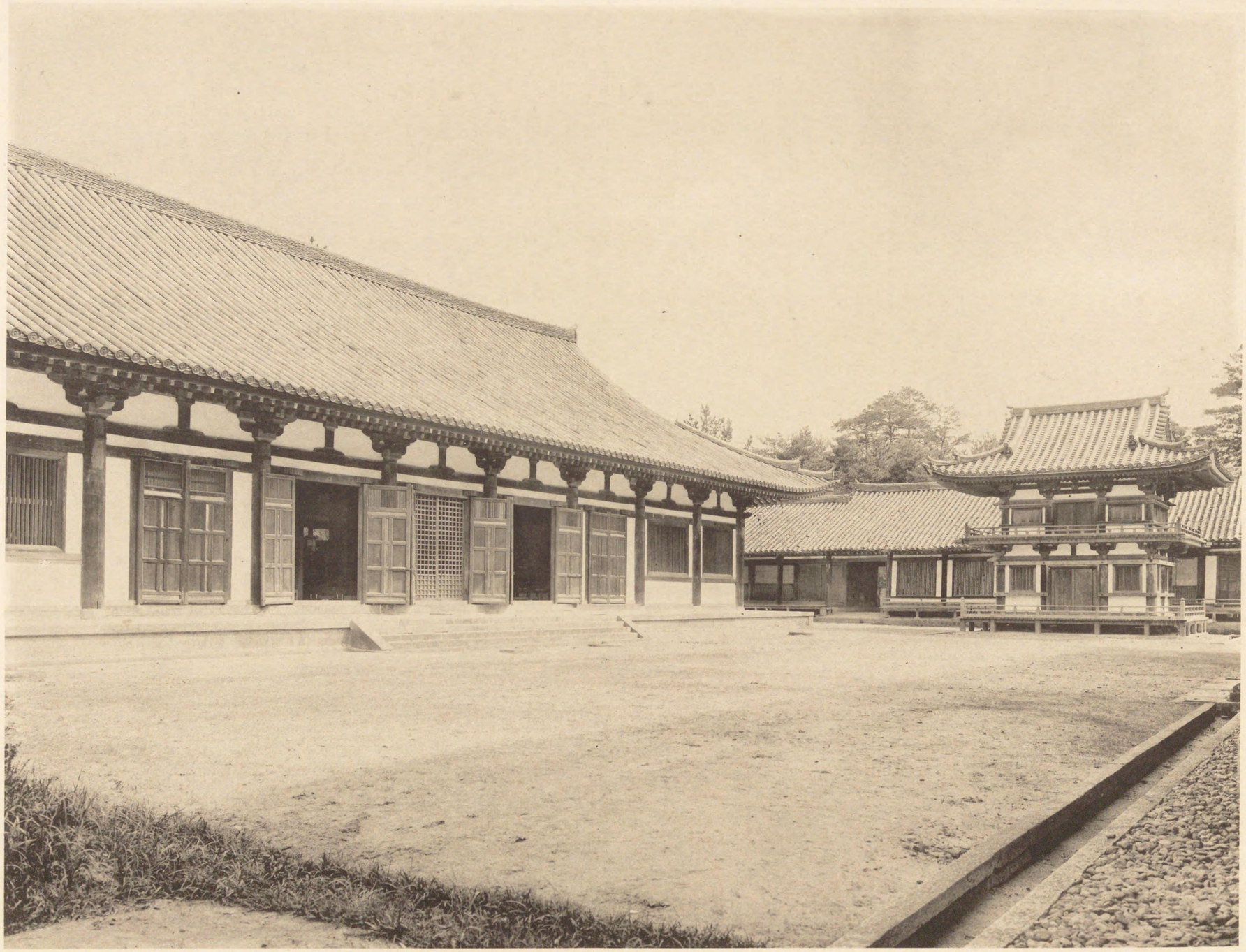
堂は七間四面單層四注にして大棟の兩端に鴟尾を擧げたり、堂の前面深さ一間通りを開放せるは此時代の一特徴にして、內陣の裝飾亦善美を盡せり。

唐招提寺講堂及鼓樓。

生駒郡都跡村大字五條　唐招提寺境内。

講堂は平城宮の朝集殿を賜り移建したるものなりといふ。然れども當時の形式を今日に傳ふるは其一部分に止り、建治元年修理の際科栱の形式を全然變改し、更に延寶の修理に當りて欄階等を除去せりといふ。九間四面單層入母屋造にして金堂の背後に建てり。

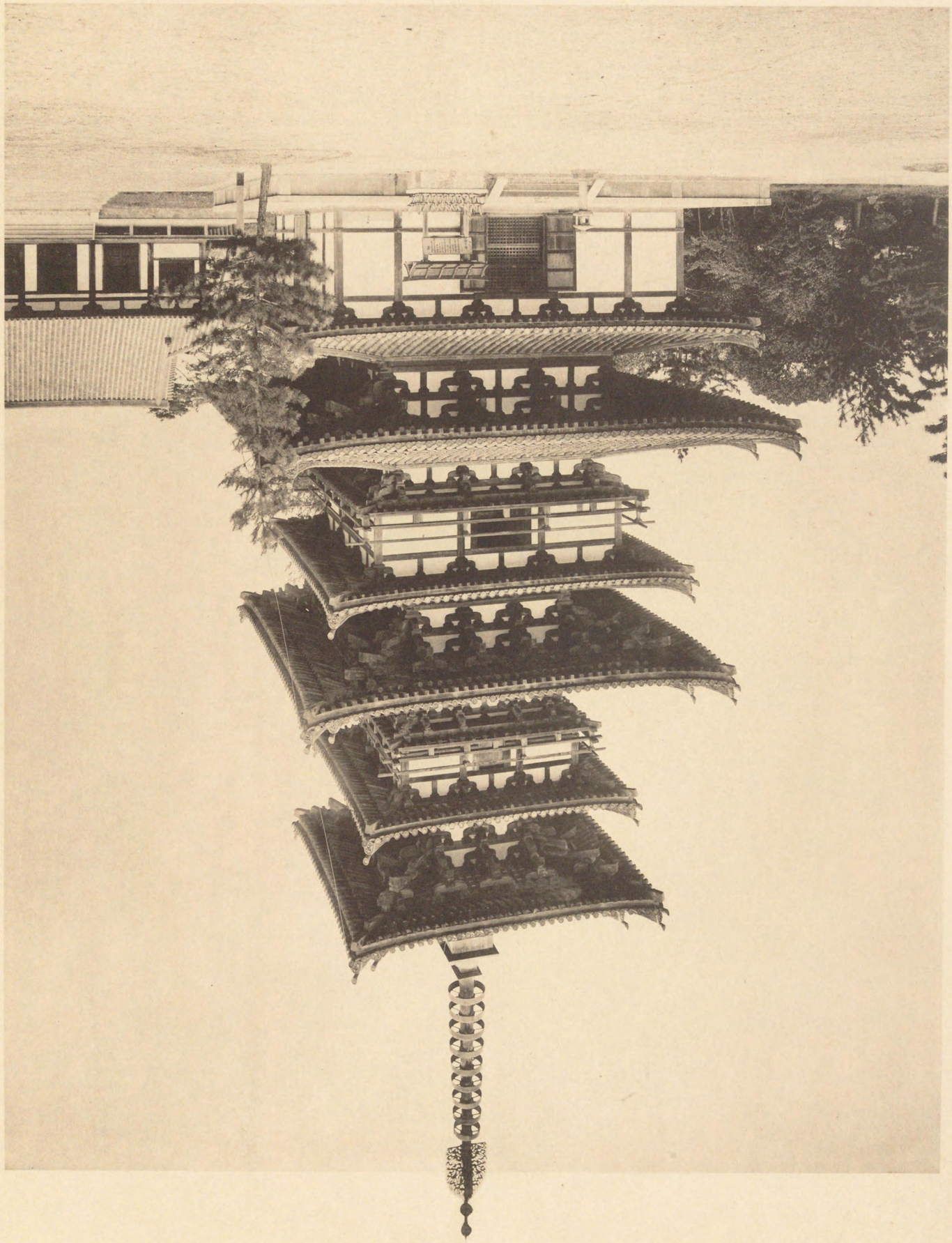
鼓樓の創立は寺傳天平寶字八年にして建久年間源頼朝の修補と稱すれども、其樣式は全く鎌倉時代に屬するのみならず、棟木に仁治元年云々の墨書あるを以て見れば頼朝薨後四十一年目の再建に成れるものなる事明らかなり。今鼓樓と稱すれども經藏なりしなるべく、重層入母屋造にして上下層の椽に勾欄を備へたる優美なる建築なり。

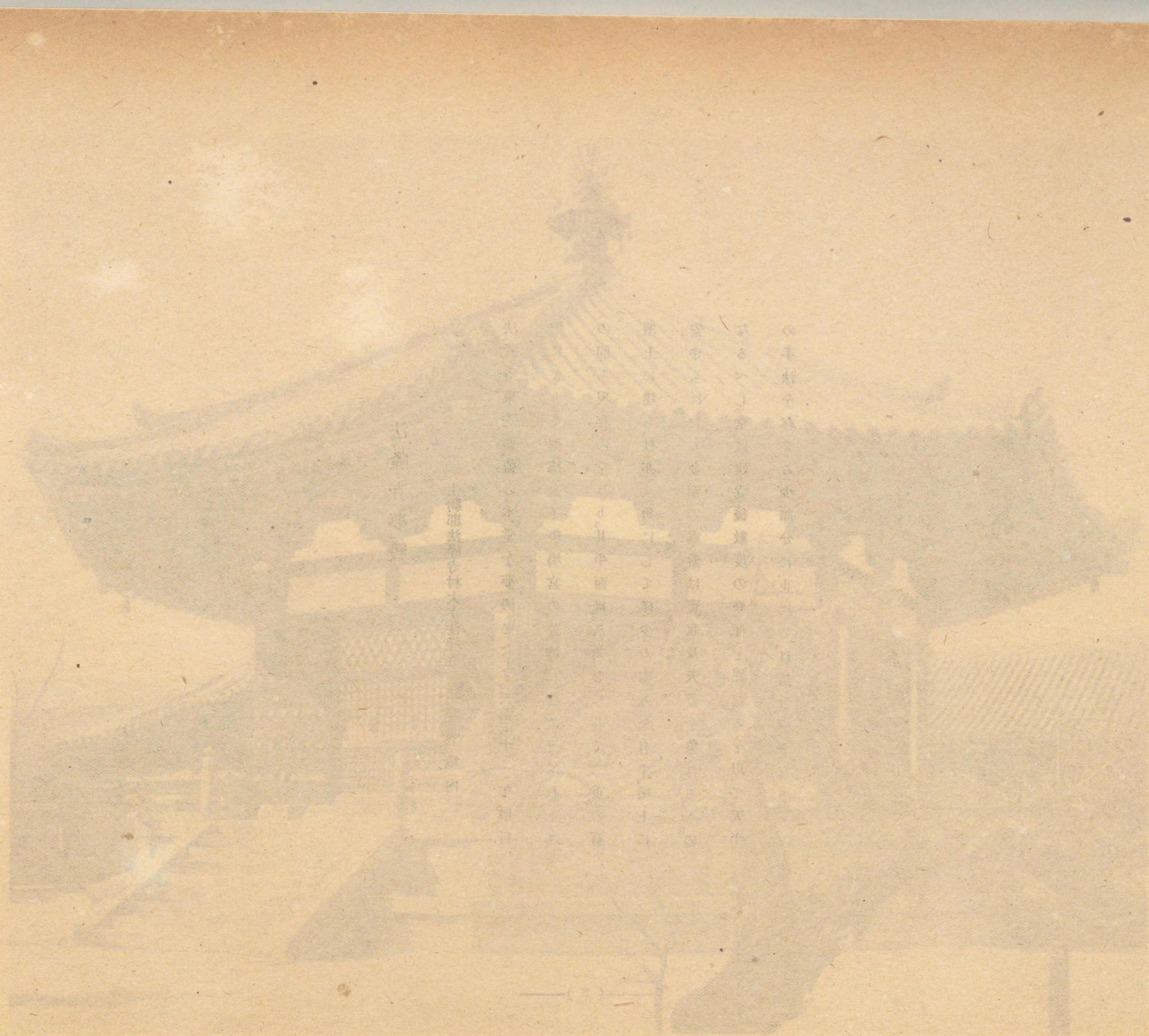


藥師寺東塔。

生駒郡都跡村大字西ノ京　藥師寺境内。

藥師寺は　文武天皇の卽位二年高市郡白橿村大字木殿に建立せられしが平城遷都の後養老二年今の地に移されたり。當時は東西二基の塔婆竝び建ちしも、現今當初の建造物は東塔を存するのみ。塔は三層にして每層裳階あり、一見六層の如き觀を呈す、當代唯一の建造物として美術史上の至寶たり。相輪の水煙は飛天を透彫にせるものにして擦銘と共に最も名あり、塔の右方に見ゆるは東院堂なり。

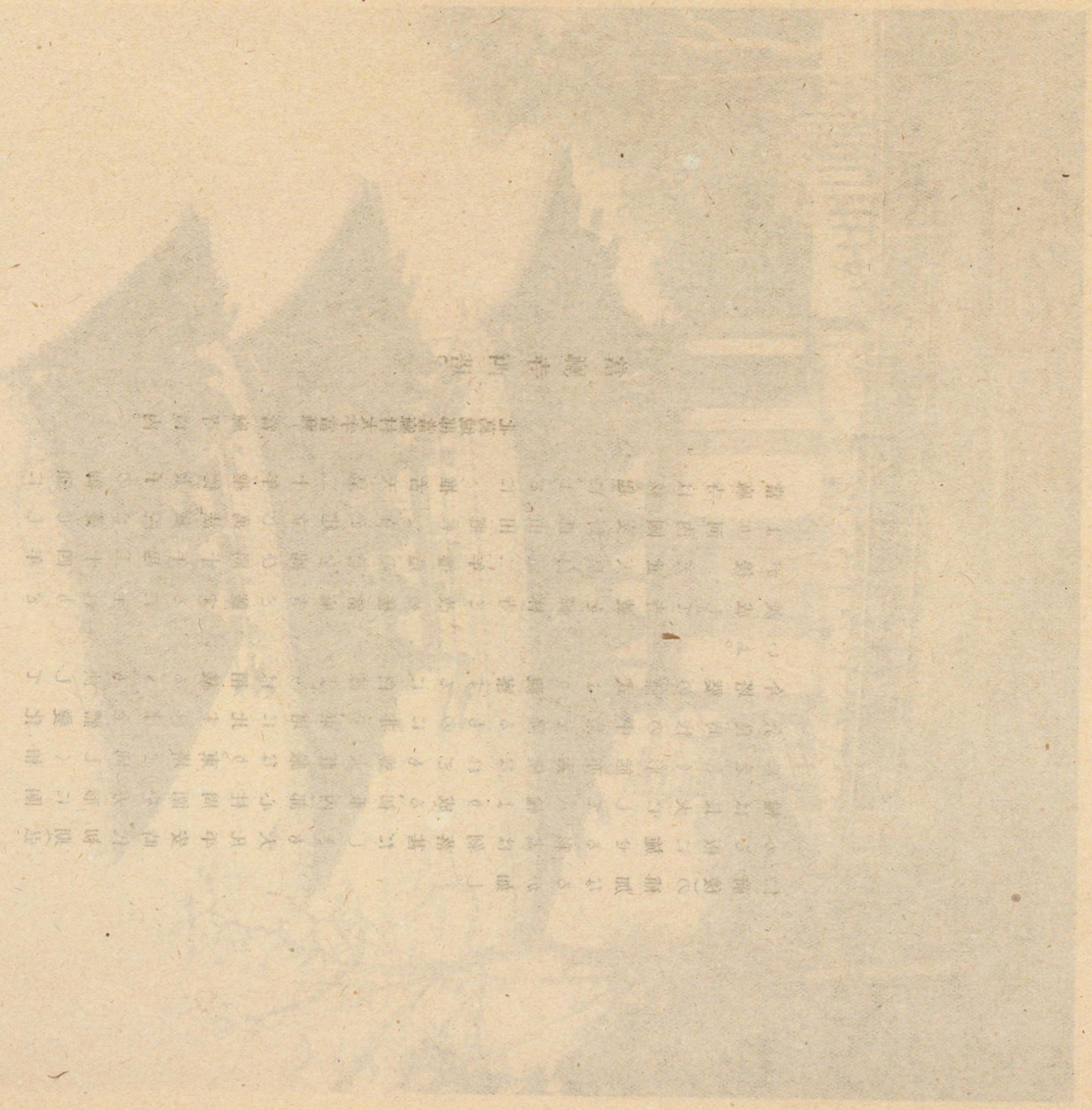




法隆寺夢殿。

生駒郡法隆寺村大字法隆寺　法隆寺境内。

法隆寺東院伽藍の本堂を夢殿となす。天平十一年僧行信によりて聖徳太子斑鳩宮の荒墟に建立せられしもの即ち現存の堂なり。其平面は八角形にして二重の石壇上に建ち、柱亦八角にして僅少の膨みを有す、屋上に安せられたる金銅の露盤は寶瓶及天蓋を象れるものなるべし。堂は建立後數度の修補を經たるを以て、天平の手法を存する少部分に止れるは惜むべきなり。

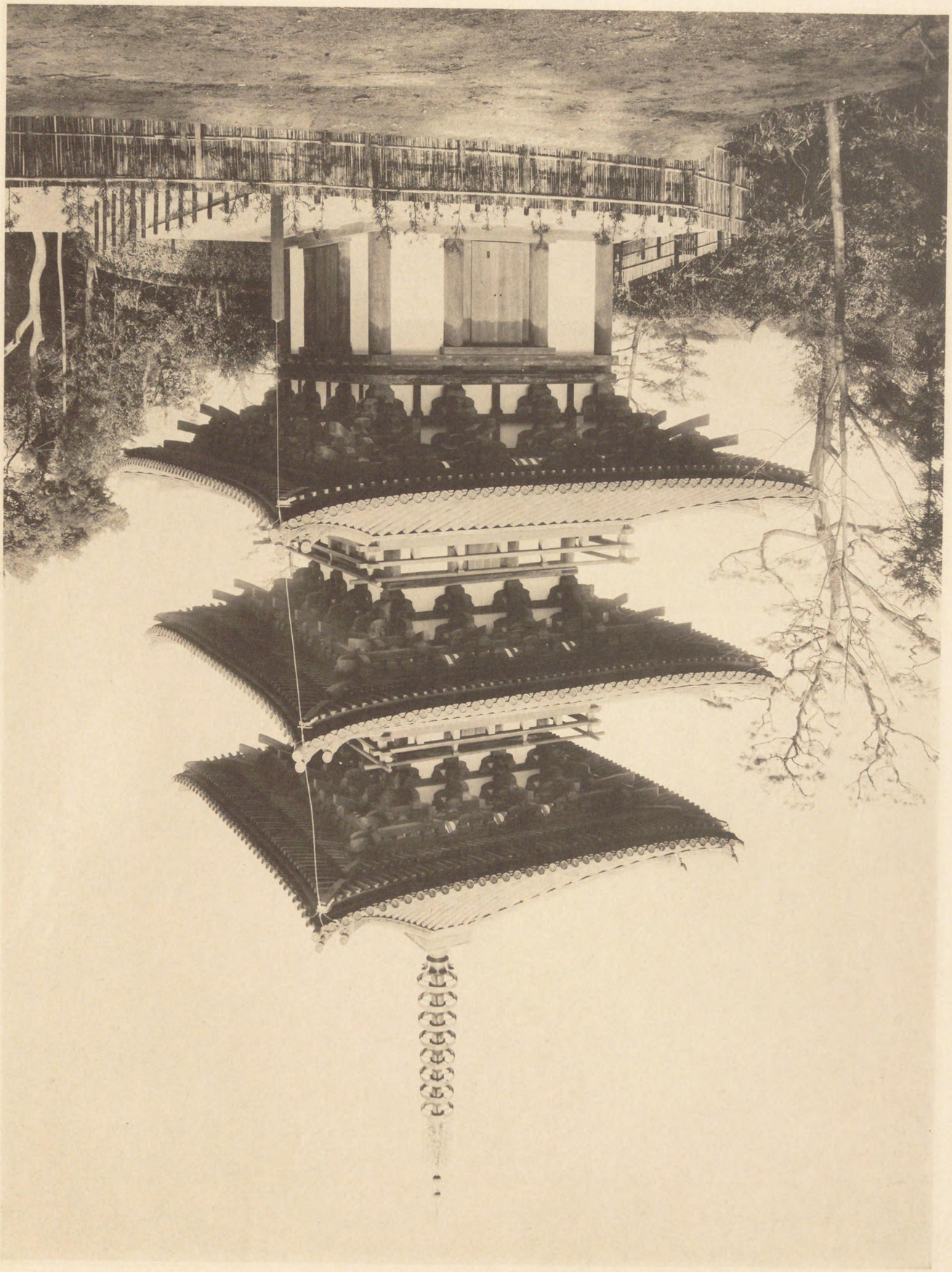


當麻寺西塔。

北葛城郡當麻村大字當麻　當麻寺境内。

當麻寺は緣起によるに　推古天皇二十年聖德太子の御願により河内國交野郡山田郷に一寺を建立し萬法藏院と號せしが後　天武天皇白鳳二年遷造の勅を賜ひ同十年起工十四年竣成して寺號を禪林寺と改め後當麻寺と號するに至れりといふ。

今塔婆の樣式より觀察するに白鳳よりは稍後るゝも決して奈良時代の中葉を降るものに非ず、東塔に比すれば全體變化に乏しく形態亦素樸なれども雄大莊嚴なり。東塔と同しく相輪は長大にして八輪より成る、初重内部心柱周圍を方形に圍める板に施せる彩畫は剝落甚だしきも大凡平安時代初期（弘仁前後）の補加なるが如し。

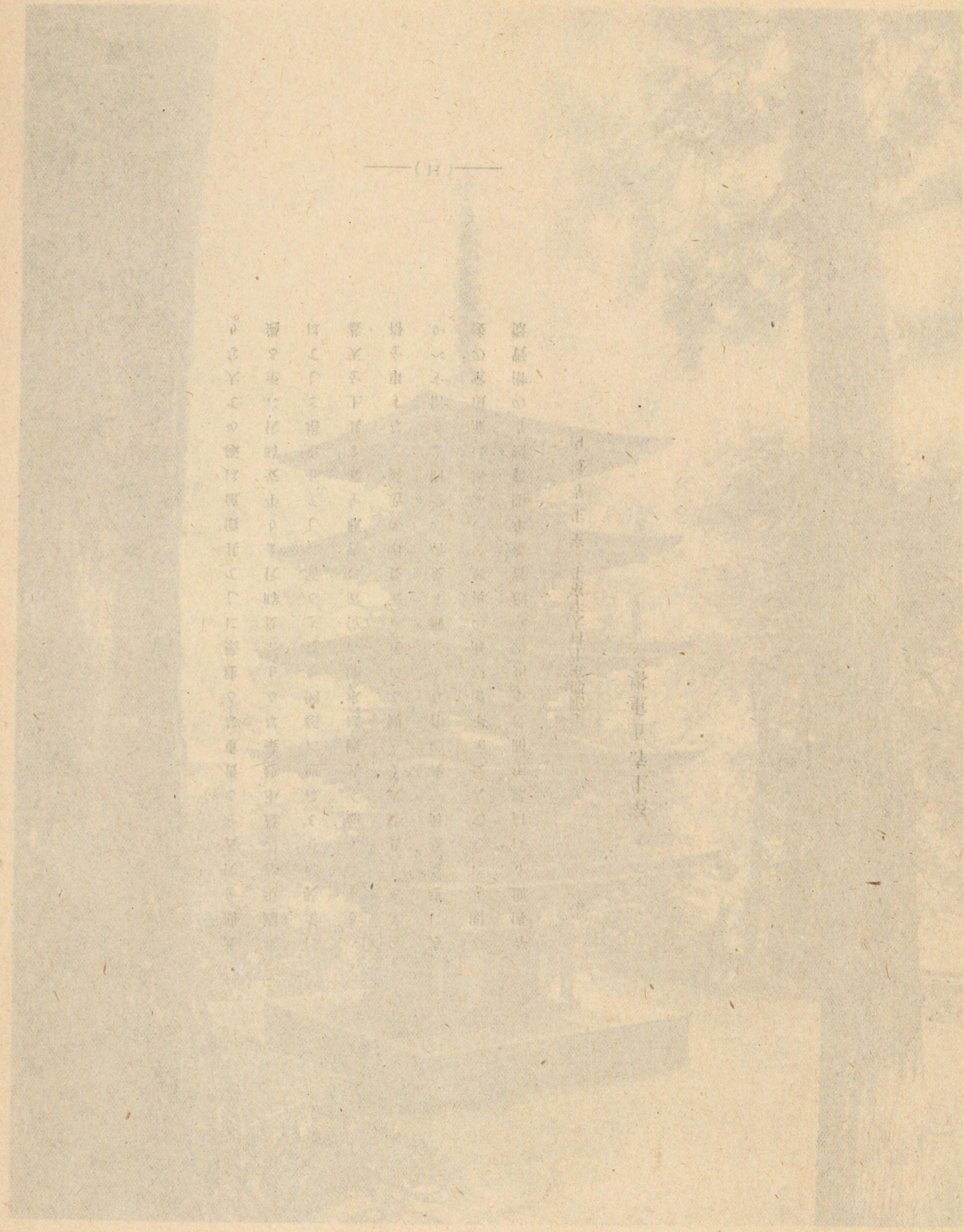


榮山寺八角圓堂。

宇智郡宇智村大字子嶋　榮山寺境内

榮山寺は養老三年藤原武智麻呂の創始にして其八角圓堂は、武智麻呂の子仲麻呂の建立と傳ふるも年月明ならず、建立後數度の修補を經て今日に及べるものなり。

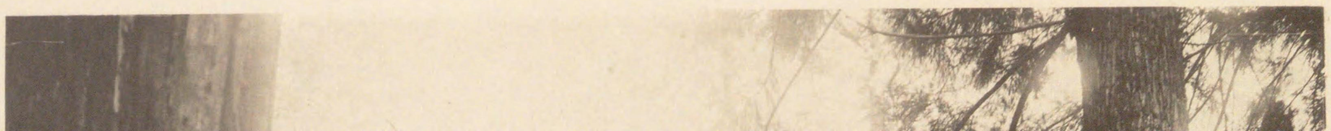
堂は八角の平面を有し、四面に板扉を設け四隅は櫺子窓とせり。柱は全部八角形にして、内陣柱の數は普通此種の建築に在りては八本なるに此れは其半數にして、上部に大天蓋を懸け、極彩色を以て佛菩薩唐草唐花等を畫けり。殊に外側柱の上部を少しく内方に傾け建物全體に安定の觀を與へたるは他に類例を見ざる所なり。頂上の露盤及寶珠の石製なる又一種の趣あり、形態の完美なる法隆寺夢殿と伯仲の間にあるも獨創的意匠を發揮せる上に於ては、寧ろ此を勝れりとす。

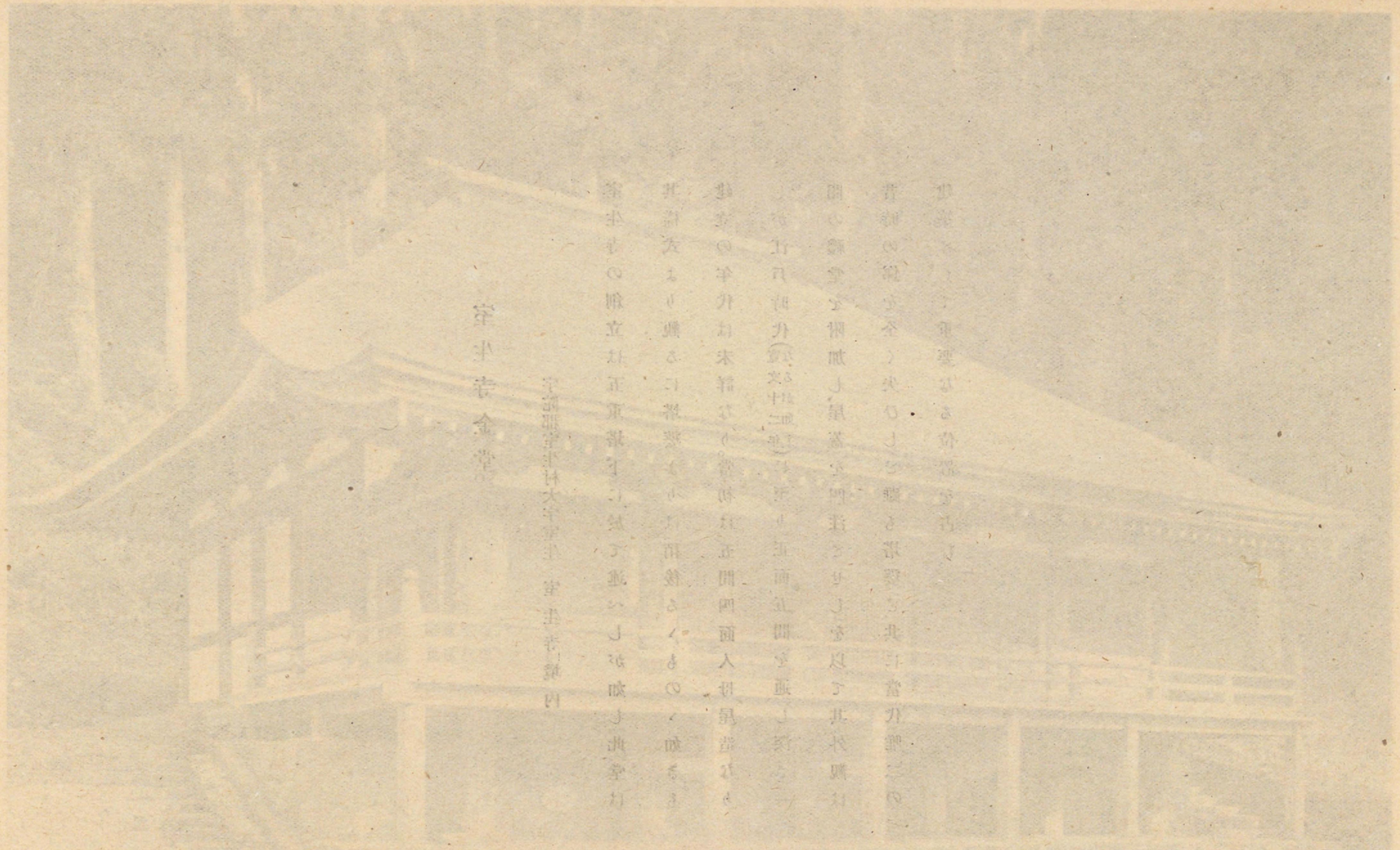


室生寺五重塔。

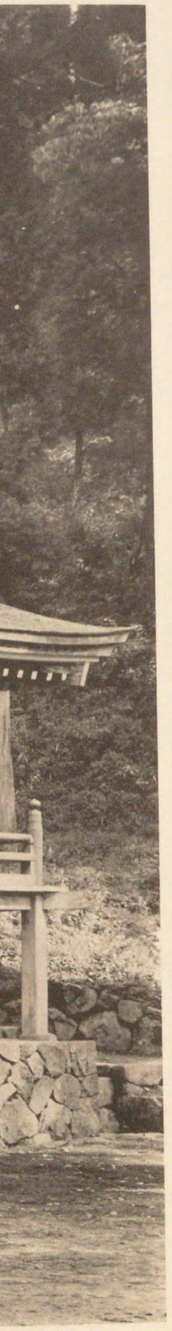
宇陀郡室生村大字室生　室生寺境内。

寺傳創立は白鳳年間役小角の草創寶龜年間興福寺の僧賢憬の開基にして天長元年僧空海の再興といふ。塔は灌頂堂の後方に建ち、空海一夜の作なりと稱す。荒唐の說固より信ずべからざるも其樣式より觀るに凡そ天長頃の造營となす事を得べきものゝ如く、其擦は、水煙の位置に寶瓶を置き其上を天蓋にて裝飾せるは他に類例を見ざる所にして、五重塔としては我國現存の最小建築なるも奈良時代より平安時代に至る過渡期を代表せる貴重なる建築にして其價値は極めて大なり。





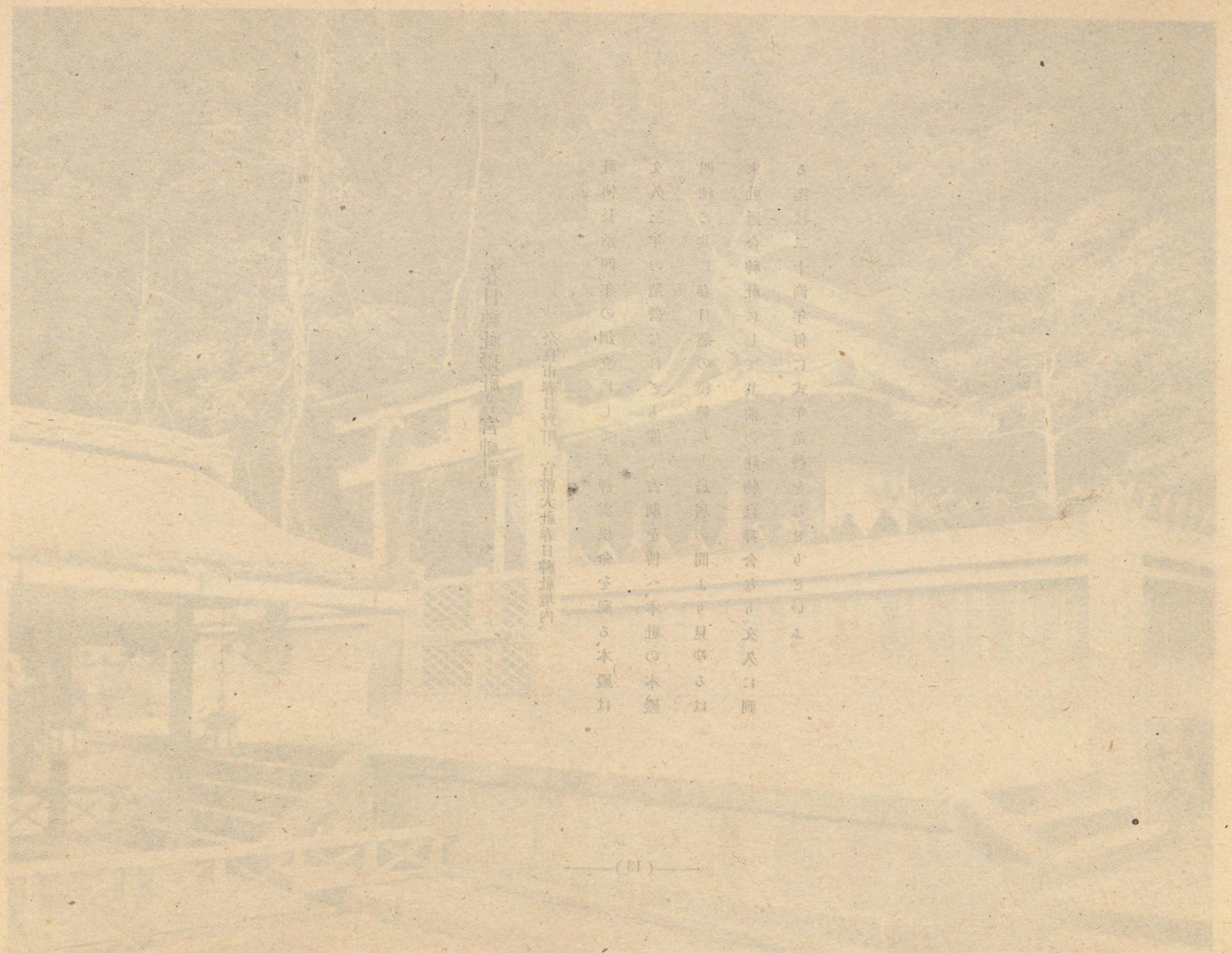
金堂半截



室生寺金堂。

宇陀郡室生村大字室生　室生寺境内。

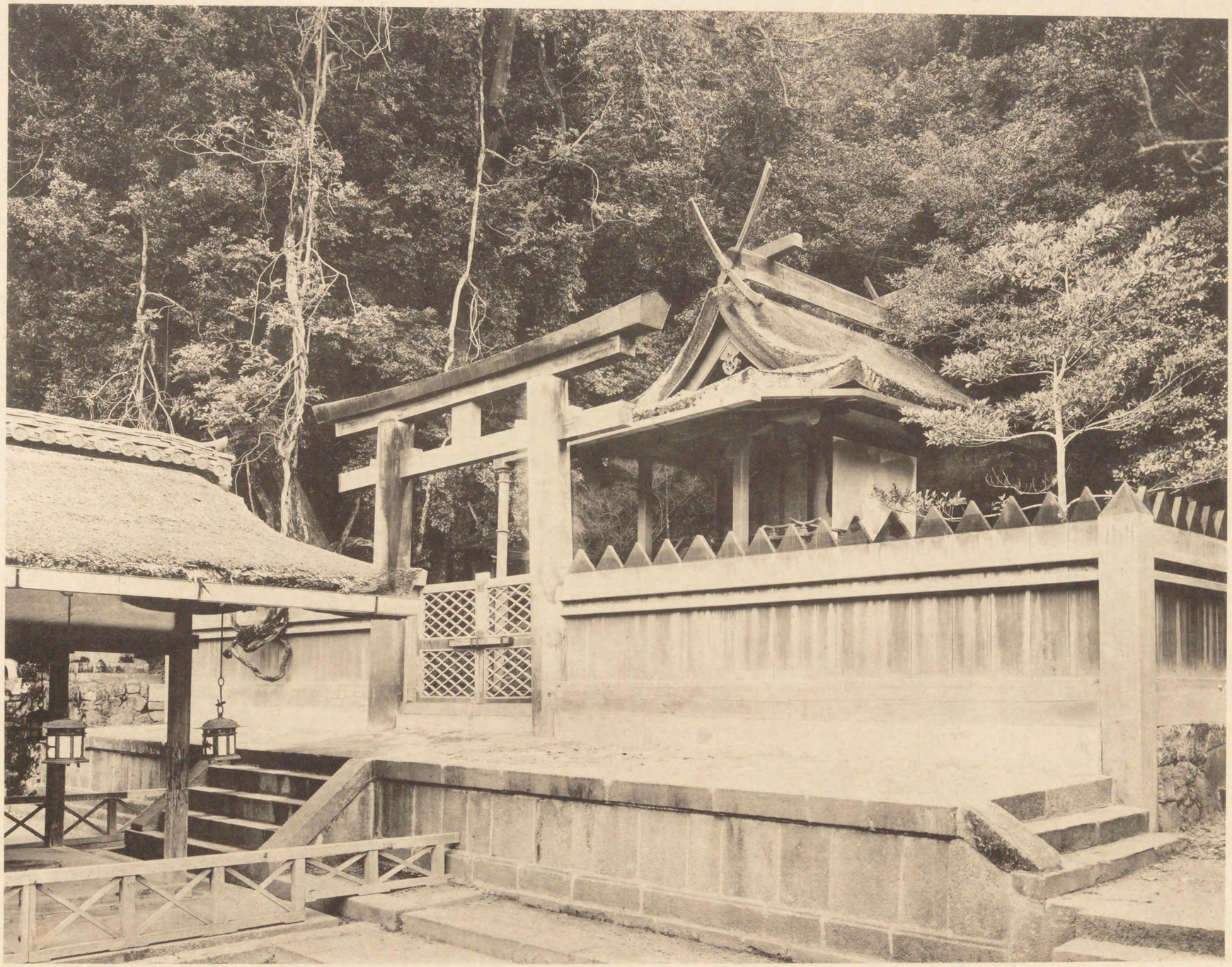
室生寺の創立は五重塔下に於て述べしが如し。此堂は其様式より觀るに塔婆よりは稍後るゝものゝ如きも建立の年代は未詳なり。當初は五間四面入母屋造なりしが江戸時代（寛文十二年なるが如し）に至り正面五間を通し深さ一間の禮堂を附加し、屋蓋を四注とせしを以て其外觀は昔時の俤を全く失ひしと雖も塔婆と共に當代唯二の建築として重要なる位置を占む。

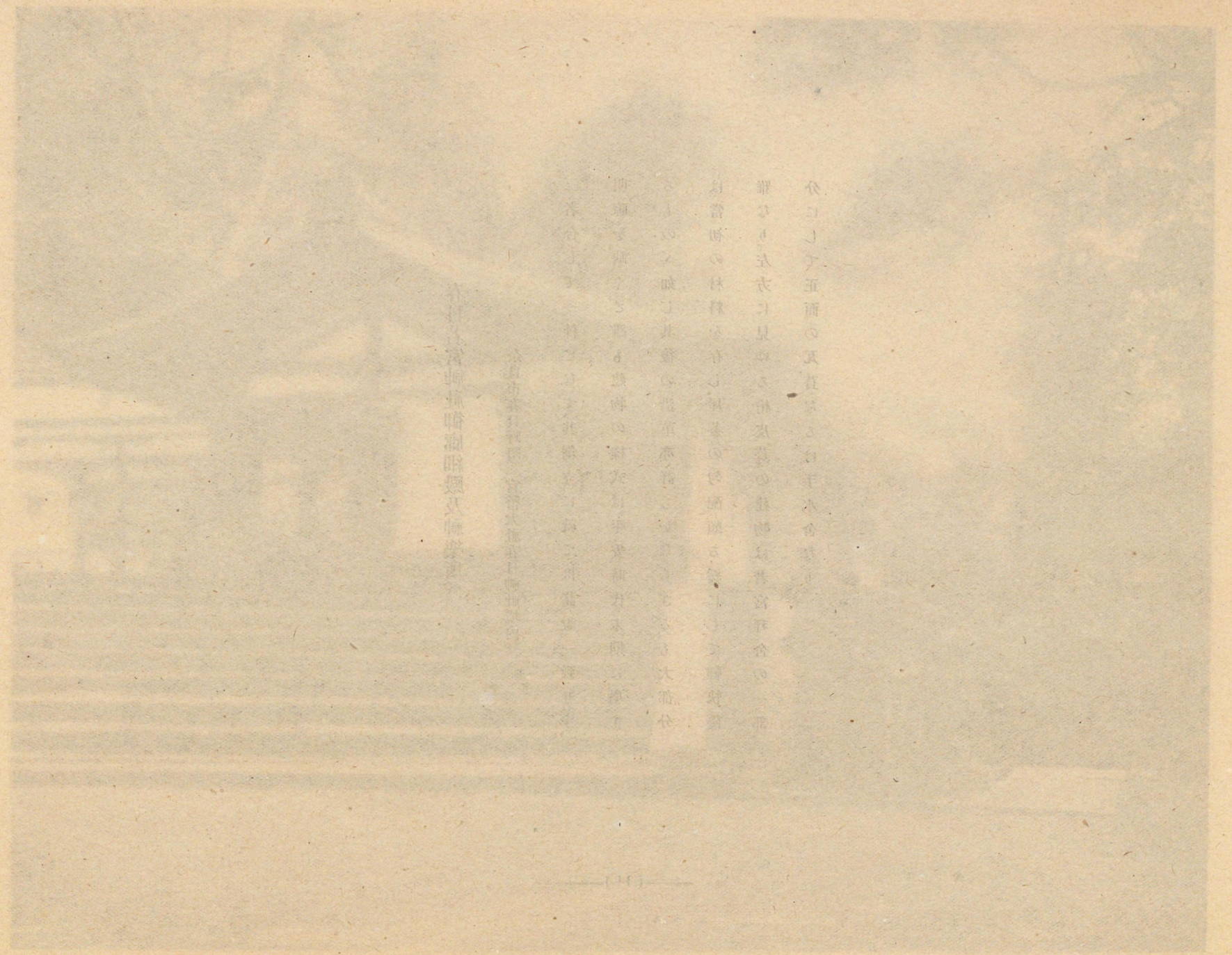


春日神社攝社若宮神社。

奈良市春日野町　官幣大社春日神社境内。

社傳長承四年の創立にして天押雲根命を祀る、本殿は文久三年の造營なれども能く古制を傳へ、本社の本殿四棟と共に春日造の模範なり。鳥居の間より見ゆるは末社通合神社にして其前の建物は拜舍なり。文久に到る迄は二十箇年毎に式年造營をなせりといふ。





春日若宮神社御廊細殿及神樂所。

奈良市春日野町　官幣大社春日神社境内。

三者合して一棟となす、其創立に就ては諸説一致せず、明瞭を缺くと雖も建物の樣式は平安時代末期に屬するものゝ如し。其後の沿革亦詳らかならざるも大部分は當初の材料を存し、屋蓋の勾配頗る緩にして輕快優雅なり。左方に見ゆる檜皮葺の建物は若宮拜舍の一部分にして正面の瓦葺なるは手水舍なり。

春日神社境内

春日神社境内にある"鹿苑"

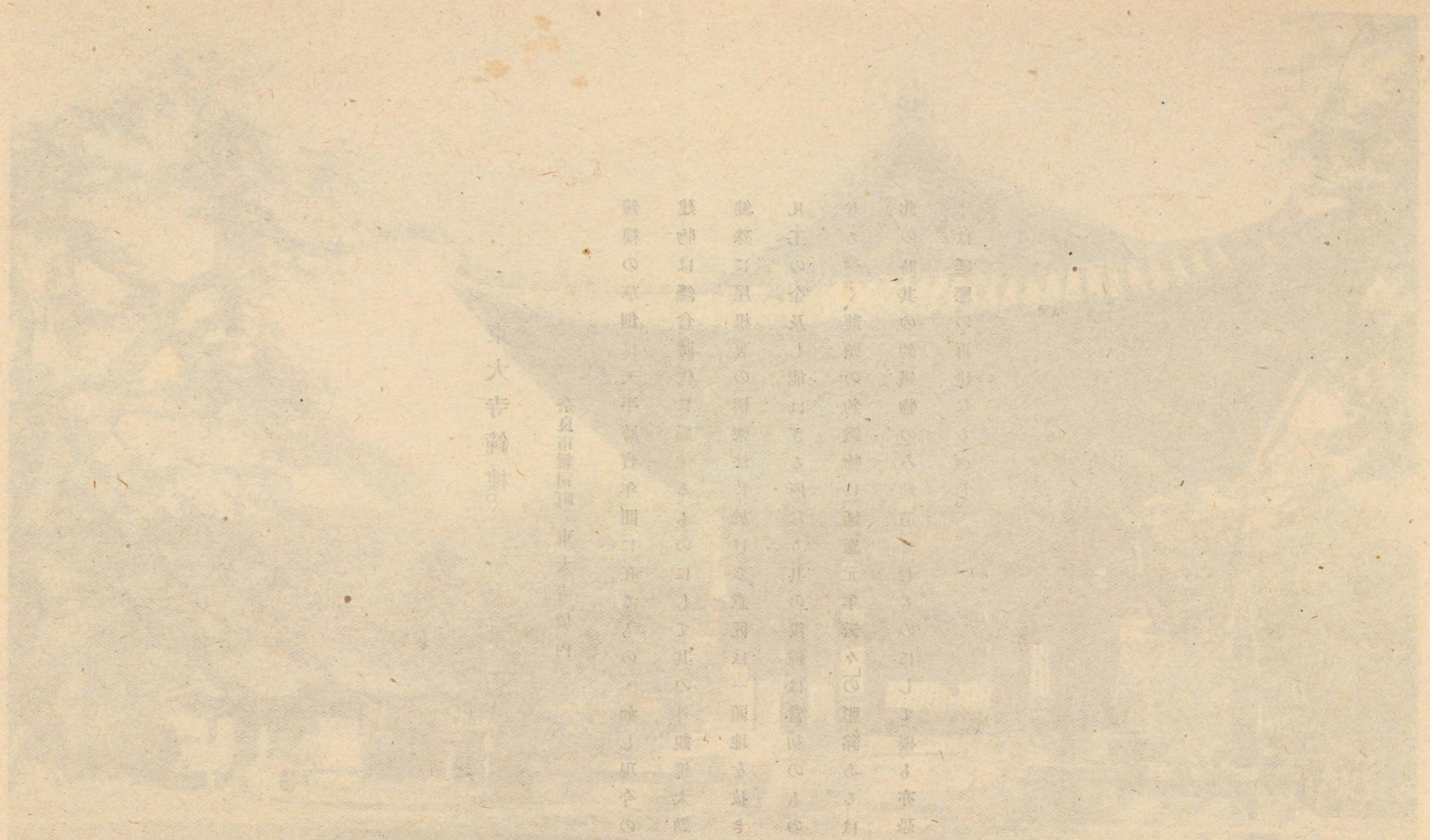
春日神社は、貞観元年（八五九）に現在の奈良市春日野町に創建された神社で、藤原氏の氏神として崇敬されてきました。

春日神社の境内には、約千二百頭の鹿が放し飼いにされており、日本古来の神の使いとして大切にされています。

春日神社酒殿。

奈良市春日野町　官幣大社春日神社境内。

春日祭に當り神酒を醸造する所にして貞觀元年の創立なり。爾來本殿の改造毎に修補を施して今に到れり。隨て當初の材料を存するもの甚だ尠し、明治十年七月竈殿と共に祭器藏と改稱せり。



東大寺鐘樓。

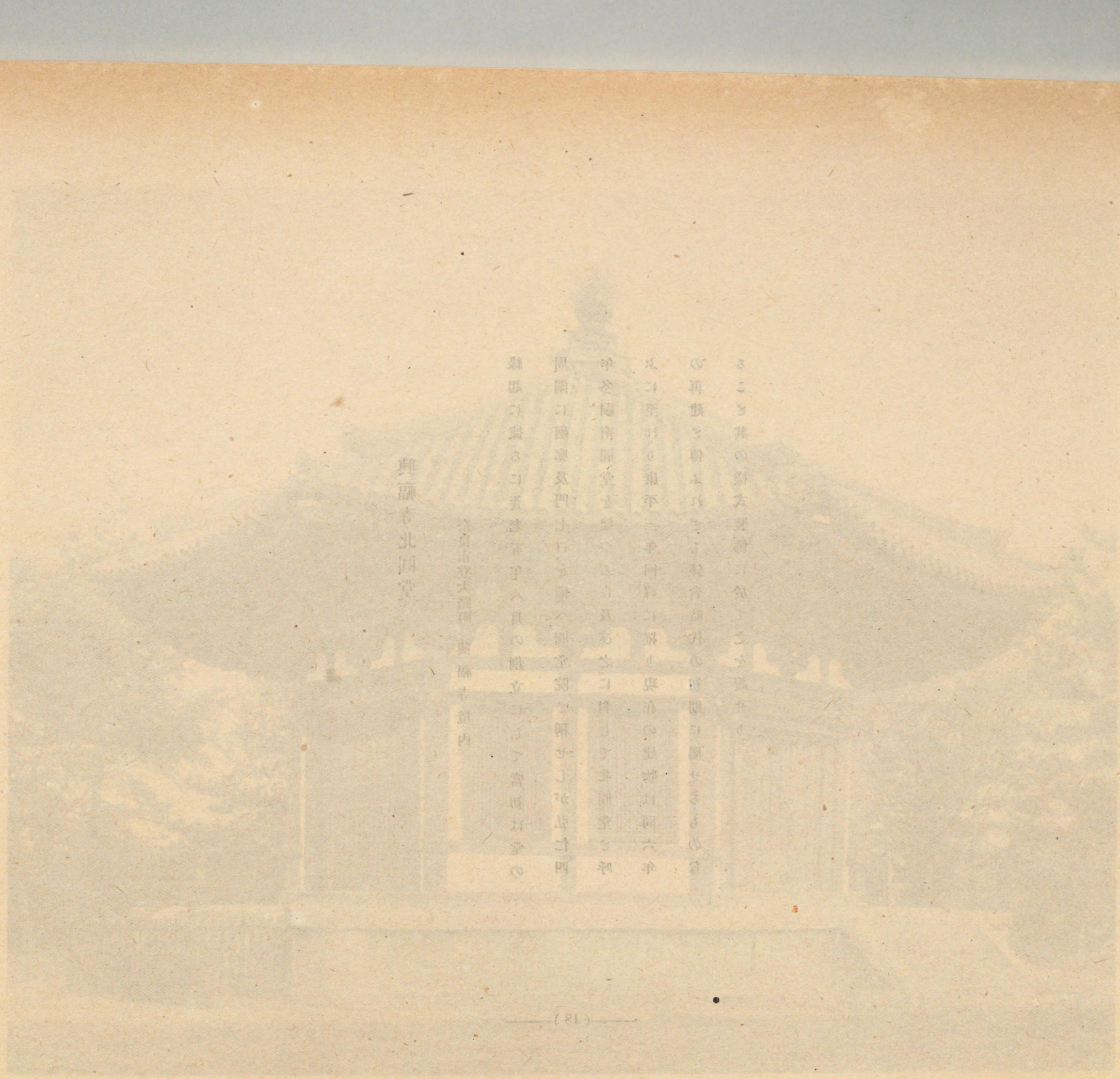
奈良市雜司町　東大寺境内。

鐘樓の草創は天平勝寶年間に在るものゝ如し。現今の建物は鎌倉時代に屬するものにして其の外觀雄大勁健殊に屋根裏の構架法に於ける意匠は一頭地を抜き凡工の企及し能はざる所なり。其の洪鐘は當初のものなるべく、龍頭の釣鐵物に「延應元年云々」の彫銘あるは此の時其の釣鐵物のみ鑄造せしものにして樓も亦恐くは延應の再建なるべし。

東大寺開山堂。

奈良市雜司町　東大寺境内。

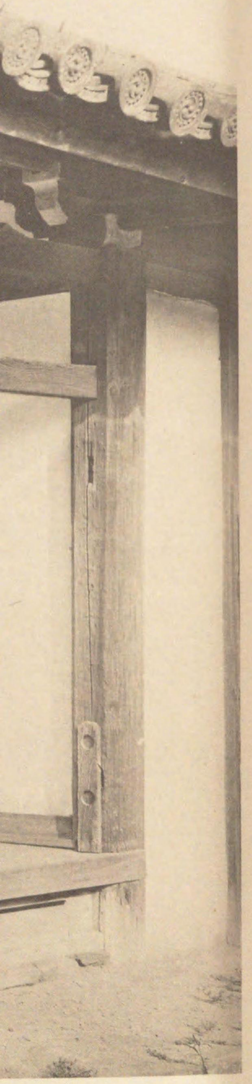
一に良辨堂と稱す。寺傳寛仁三年十一月有慶僧都の創立する所といふ。然れども現在の建物は手法同寺南大門に一致せる點多し。建物は方三間、内陣方一間にして、斗栱は挿肘木三手先にして、天井格椽は四隅及び中央より頂點に集る穹窿狀をなす。建坪僅に十六坪餘、單層寶形造の小建築なれども構架の意匠自由にして鎌倉時代の樣式を充分に發揮せる點に於て得易からざる建物の一なり。



興福寺北圓堂。

奈良市登大路町　興福寺境内。

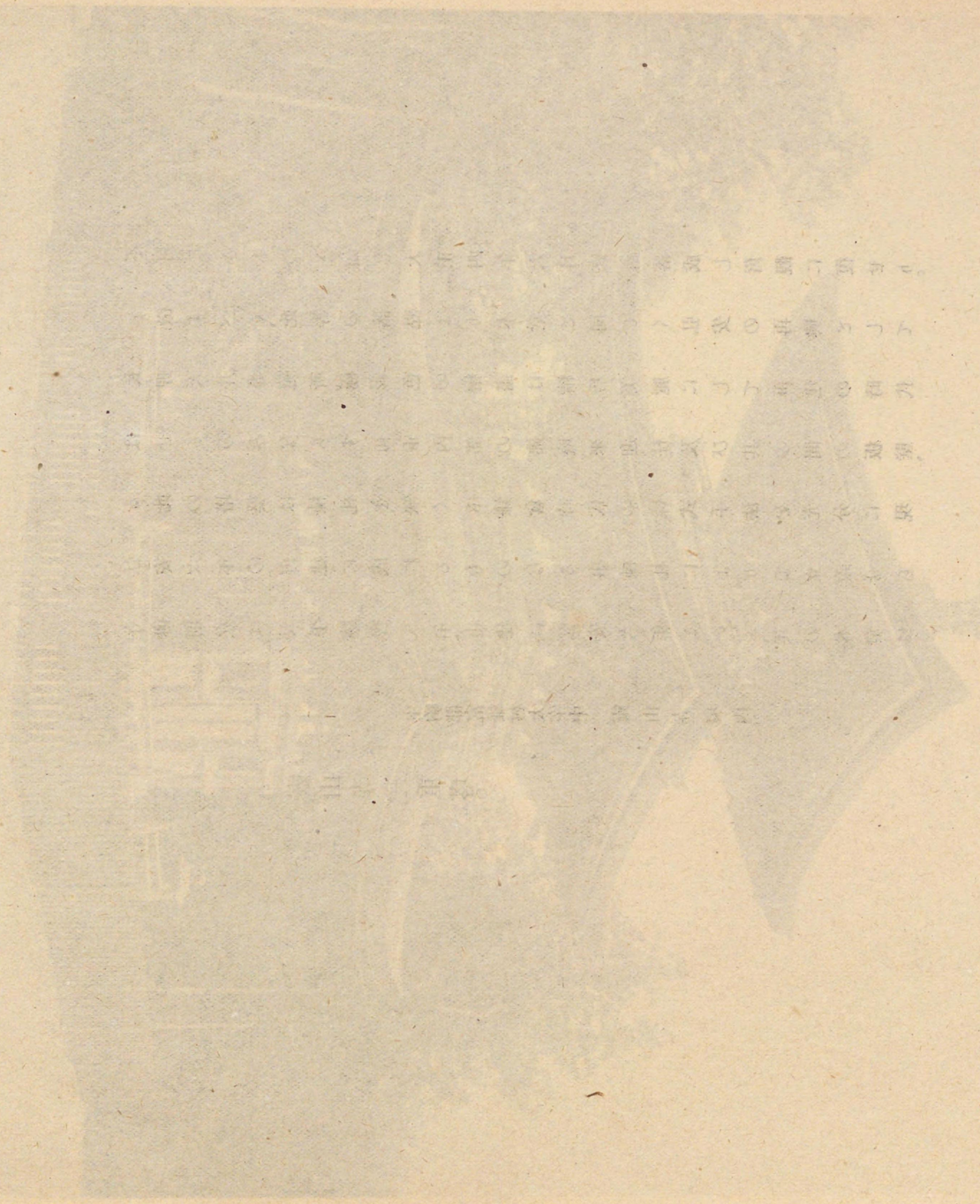
緣起に據るに養老五年八月の創立にして當初は堂の周圍に廻廊及門七口を備へ圓堂院と稱せしが弘仁四年冬嗣南圓堂を建つるに及び之に對して北圓堂と呼ぶに至れり。康平三年回祿に罹り現在の建物は同六年の再建と傳ふれども鎌倉時代の初期に屬せるものなること其の樣式裝飾に於て之を證せり。



十輪院本堂。

奈良市十輪院町　十輪院境内。

當寺は元と元興寺の一院にして寺傳靈龜元年元正天皇の勅願により建立魚養の開基と稱す、沿革詳かならず。現在の建物は其の様式より鎌倉時代の初葉に屬するものなる事を推定し得べし。



靈山寺三重塔。

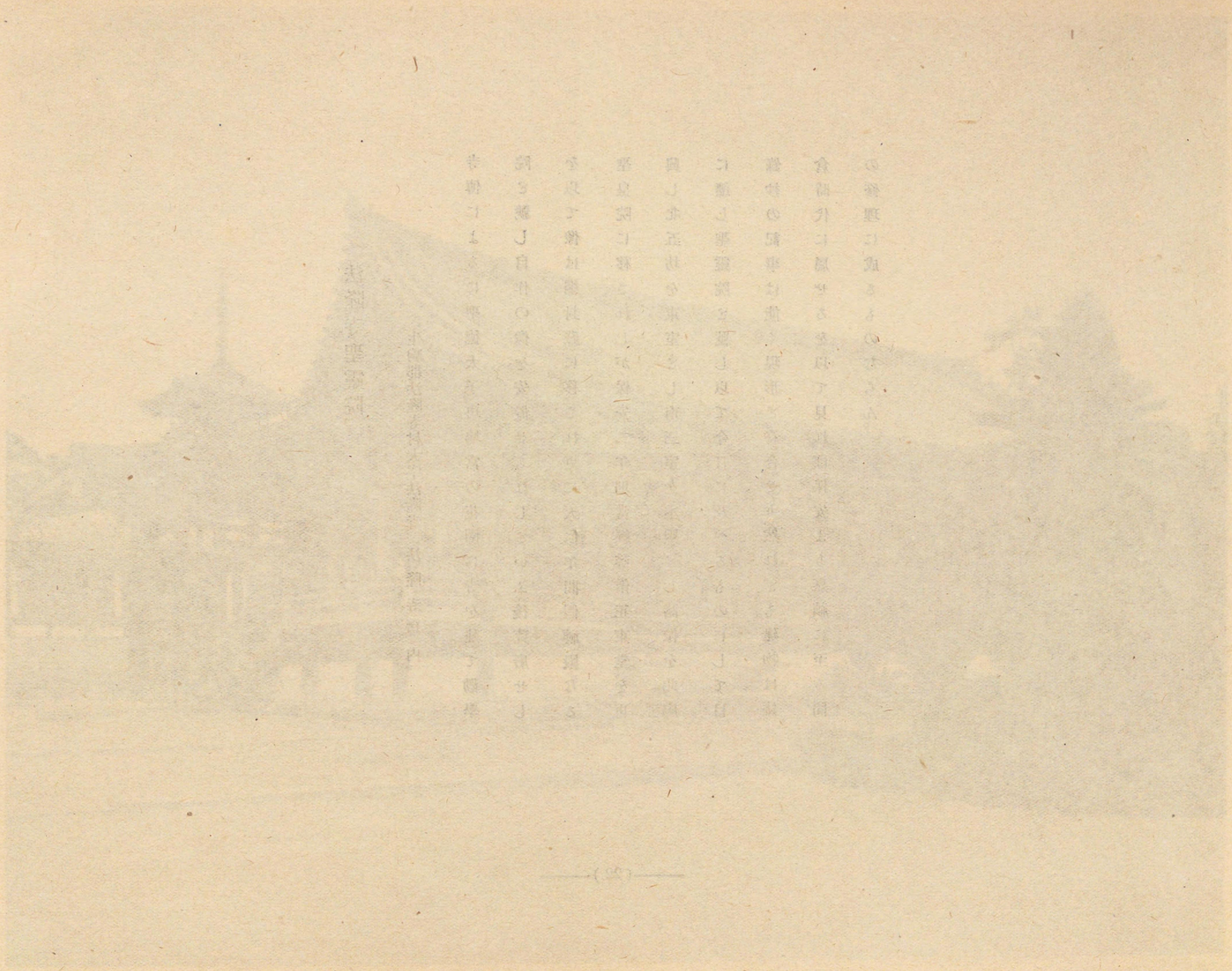
生駒郡富雄村大字中　靈山寺境内。

寺傳創立は天平勝寶八年、再建は弘安六年といふ、其の本堂は弘安六年の再建に成れるものなる事棟札によりて立證せらる。此の塔婆は棟札を缺くも鎌倉時代の樣式手法を充分に現はせるのみならず初重内部の佛壇來迎柱及び其の間の板壁、長押、天井等隨所極彩色の繪畫は精巧美麗にして再建の時代を徵すべく、此等の諸點より本堂と同じく弘安の再興として不可なきものゝ如し。大正四年六月修繕落成し舊觀に復せり。

藥師寺東院堂。

生駒郡都跡村大字西の京　藥師寺境内。

寺傳養老年間の建立といふ。再建に關しては現存の棟札に弘安八年云々とあるのみならず、建物の樣式亦鎌倉時代に屬せるを以て、弘安の再建に成れる事明かなり。建物は元南面せしが享保十八年の修補に當りて西面せしめたり。最近古社寺保存法により大修繕を施し全く舊觀に復するに至れり。



法隆寺聖靈院。

生駒郡法隆寺村大字法隆寺　法隆寺境内。

寺傳によるに聖徳太子斑鳩宮の花園に寺を建て勸學院と號し自作の像を安置せられしといふ。後荒廢せしを以て像は綱封藏に移され更に天仁年間假神殿なる聖皇院に移されしが保安二年別當經尋僧正東堂を再興し北五坊を東室とし南三室を本殿とし諸像を此處に遷し聖靈院と號し以て今日に及べるものにして目錄抄の記事は能く現形と符合せり。然れども建物は鎌倉時代に屬せるを以て見れば保安より嘉禎に至る間の修理に成るものならん。

法隆寺上御堂。

生駒郡法隆寺村大字法隆寺　法隆寺境内。

寺傳舍人親王の本願永業禪師の草創といふ。永祚元年大風の爲に顚倒し應長元年七月舊礎の上に再建せしといふもの卽ち現存の建物なり。大講堂の後方に位置せる七間四面の建築たり。